

▶ ぽっかぽかフェスタ 大盛況

3月30日、子育て中の親が中心となって企画・運営する「ぽっかぽかフェスタ」が中総合会館で、初めて開催されました。

子どもも大人も楽しめる「ものづくり」コーナーやフリーマーケット、スタッフによる似顔絵のコーナーなど数多くのブースが用意され、どのブースも順番に巡る親子でにぎわっていました。そのほかにも、ミニ運動会やパパサークルによる新聞遊び、ママサークルによるフラダンスステージなども行われ、ほのぼのとした盛り上がりを見せました。

この日、雨の中約400人の親子連れが訪れ、会場内は子どもたちの笑顔とそれを見守る母親や父親の笑顔で「ぽっかぽか」な雰囲気となりました。



①赤ちゃん運動会
②にぎわう会場内
③新聞紙を使った遊びに大興奮!

▶ 版画家 田主誠さん 作品 177点を市に寄贈



4月10日、舞鶴市出身の版画家・田主誠さん(大阪府、71歳)が、舞鶴の風物などを描いた版画177点を市に寄贈しました。田主さんは、独学で版画を学び、これまでに1万点を超える作品を制作。国内外で多くの賞を受賞されています。

田主さんは「舞鶴には素晴らしいところがたくさんあります。作品を多くの人に見ていただいて、心にうけるおいを感じてもらえれば」と話していました。

寄贈された作品は、今秋、赤れんがパークで展示される予定です。

①作品の前に微笑む田主さん
②寄贈作品「松尾寺馬頭観音像」
③多々見市長から感謝状を受ける田主さん

▶ 姉妹都市で英語を学ぶ

3月22日～31日まで、舞鶴市の中高生が姉妹都市のポーツマス市(英国)を訪問しました。

青少年英語研修として市が毎年行っているもので、今年の参加者は中学生5人、高校生9人。英語学校での学習をはじめ、ホームステイなどを通じて、英語と英国文化への理解を深めました。

帰国後の4月4日、市長への報告に訪れた参加者たちは「思い切って話しかけることの大切さを感じた」「英語の難しさを痛感。さらに上達したい」など、感想や今後の希望について話していました。



①スティーブ・ワイリー副名誉市長と懇談する研修生
②ホームステイ先のホストファミリーが出迎える
③英語学校で授業



京都交通バスの路線とダイヤが変更

京都交通(株)の協力により、5月12日(月)からバス路線の運行ルートとダイヤを変更します(現在、国へ申請中)。これにより、「東西循環線」が市内公的病院(舞鶴医療センター、舞鶴共済病院、舞鶴赤十字病院、舞鶴市民病院)を循環する「病院間循環バス」の役割を担い、通院の利便性が向上します。

◆主な変更内容

- ◇東西循環線に「共済病院前バス停」を新設
- ◇東西循環線の右回りと左回りともに30分毎の完全パターンダイヤで運行
- ◇市場循環線を新設(東舞鶴駅前～大門三条～市場)
- ◇「市民病院前バス停」を「浮島バス停」に名称変更

◆病院間循環バス 運賃を助成

公的病院を受診した後、東西循環線を利用して同じ日に他の公的病院を受診される患者さんに対し、病院間のバス運賃を助成します。

《助成の利用方法》

最初に受診した公的病院で助成券を受け取り、次に受診した公的病院に提出。支払った病院間のバス運賃を全額助成。

▶バスのダイヤに関する問い合わせは、京都交通(株)舞鶴営業所(☎75・5000)か企画政策課(☎66・1042)へ。

▶病院間の運賃助成に関する問い合わせは、舞鶴地域医療連携機構(☎75・4900)へ。



保健福祉 ニュース

人間ドック・脳ドック受診費用を補助

人間ドックと脳ドックの受診費用を補助します。病気の早期発見・早期治療のためにこの機会に受診を。

【対象】

- ◆舞鶴市国民健康保険加入者で次のいずれにも該当
 - ◇30歳以上(脳ドックは40歳以上)で入院・妊娠していない
 - ◇保険料を滞納していない
- ◆市内在住の後期高齢者医療制度加入者

【自己負担額】

- ◆市内医療機関
 - ◇人間ドック(12,960円) ◇脳ドック(12,960円)

新舞鶴・三笠地域包括支援センターが移転

4月16日から舞鶴市市民病院別館に設置していた「新舞鶴・三笠地域包括支援センター」を舞鶴市東地区中心市街地複合施設(旧マイコム)2階へ移転しました。電話番号やファクスに変更はありません。

◆電話・ファクス番号…(☎77・5001、FAX77・5011)

◆人間ドック+脳ドック(24,680円)
※追加で骨密度測定、肝炎ウイルス検査(B型・C型)も受診可(各610円)

◆明治国際医療大附属病院(南丹市)

- ◆人間ドック(10,814円)
- ◆人間ドック+脳ドック(19,307円)

【受診期間】来年3月31日(木)までに指定の医療機関で
【その他】特定健康診査と両方は受診不可

【申し込み方法】5月15日(木)～7月31日(木)に保険証と印鑑を持参し、保険医療課か西支所保健福祉係へ。

▶詳しくは、保険医療課(☎66・1003)か西支所保健福祉係(☎77・2253)へ。

《地域包括支援センターとは?》

地域で暮らす高齢のみなさんが、心身ともに健康で安心して生活が送れるよう、相談を中心に支援する窓口です。市内では7か所で地域を分担し、事業を展開しています。

▶詳しくは、高齢者支援課(☎66・1018)へ。